



フィリピン ブルハン訪問報告

安井武雄 アジア学苑

自分たちの手で運営すると同時に、その集まりが学習の場である。



ブルハンの婦人たち

前号で紹介した、少額の資金を元手に何らかの事業を自分たちで行い自立を計る「トリクルアップ・プログラム」(TUP)がどのように行われているかを見るために、昨年12月に、私はフィリピンに向かった。

って会合を持っている。

まずニューヨークのTUP本部からアラファンデーションを通して1人当たり、百ドルが貸し出される。これを元手に自分が出来る事業を起こし、借りた百ドルは無利子で返却する。その返済金はそのグループの銀行通帳に積み立てられ、皆の承認を得れば事業の運用金として、今度は有利子で借りることが出来る。つまり、このグループが自分たちの手で運営すると同時に、自分たちの小さな銀行を持ち、自分たちの力で運営するということになる。その集まりが学習の場である。

グループの人達が行っている事業がどのようなものかを見せてもらった。軽貨屋さん。洋服の仕立て、レース編をしている人。捨てられた人形を集め修理をしてリサイクルしている人。とか約百人百種である。このTUPに似た方法に「家畜銀行」や

「米銀行」などがあるが、このグループの特徴は、自分たちの手で運営すると同時に、その集まりが学習の場になっていることである。アラファンデーションではのために2人の職員を地域に定期的に派遣し、申請の仕方、事業計画の立て方、簿記の付け方など助言している。フィリピンでは銀行からの借り入れの利率は年2.0%程度で、しかも担保ない人々も借りることは難しい。このよな中ではTUPはまさに自らの手で運営し自立する助けになっていることは確かである。

自立支援 カンボジア帰還難民のための牛の支給プロジェクト

1994年目標
150頭(300万円)



支援者による説明



牛の耕作



1991年のバリと平協定後、タイ国境にあったカンボジア難民キャンプは閉鎖され約4万人の難民が、本国に帰還した。カンボジアは農村人口が80%を超える農業国であり、産業は乏しい。多数の帰還難民が定着するため、農村地帯であり、耕作が最も伝統的で普通の農業である。

田畑の耕作は、かつて日本でも行われていたように使役用の牛で行われる。日本と異なり牛が小型であるため、2頭が一组で、耕作したり荷物の運搬を行う。

牛を所有しない人達は、他人から借りざるをえず、借りた場合の支払いは、現金による支払い(1ヘクタールの耕作使用料は、約4千円。ただし、平均の年収は1万5千円から2万円である)による支払い(収穫物の40%)も労働による支払い(1日の使用に対し3日間の労働)の方法があるが、貧しい人達がますま

す貧しくなることになる。

農民の人達の自立のためには、耕作用の牛は決定的である。支給の方法は、一定の条件を満たす4家族当たり1組の牛を支給する。そして新しく子牛が生まれたとき親牛を返却し、子牛を自分たちのものにするか、2才になるまで子牛を育てて子牛で返却する(牛の銀行)。

ル・ワフ世界連盟奉仕部(LWF)は、1979年以降、カンボジアで援助活動にあたってきたNGOであるが、一昨年から準備にかかり、昨年から、帰還難民への牛の支給プロジェクトを開始している。カンボジア事務所と協力し、150頭(75億)を今年の目標として、支援したいと思ふ。皆様のご協力をお願いいたします。(詳しくは、別紙をお読みください。)

難民救援

ソマリア、スーダン難民のため、その他



水を求めて カクマに住むソマリ人の人々

スーダンは、現在アフリカで最も長く、10年以上の内戦が続いている。内戦による飢饉で50万人以上が死亡し、今も南部の黒人人口約450万人の半分以上が飢饉に直面している。

LWFは、1992年7月に、ケニアに逃れて来たスーダン難民2万人のためにカクマキャンプの設置に取り組んだ指導的NGOである。昨年は、乾パンと古着を皆様の協力でカクマに寄贈することができた。

今年は、キャンプとその周辺地域の植林活動。難民の人口が現在は4万人に増

加したために必要になった種々の増築、子供のための教育教材の製作、サッカーボールの購入などの支援が求められています。昨年の募金の繰越に加えて今年度約500万円の資金が必要です。

植林プロジェクト

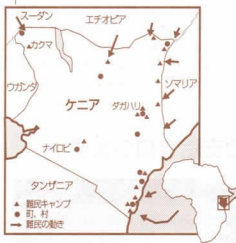
このプロジェクトは、地方の森林局と協力して行われる。キャンプ周辺はケニアでも貧しい地域で、仕事の機会が少ない。植林事業は環境保全とともに難民と土地の人達に仕事の機会を提供することになり、難民と周辺住民の関係を良好にすることになる。昨年は7万株が植林された。

教育プロジェクト

キャンプにいるスーダンのそれぞれの部族の伝統的物語を集め、イラスト入で本を印刷する計画である。カクマの子供たちは戦争のため自分たちの伝統と文化を奪われている。文化と伝統を伝える印刷物は皆無の状態である。

サッカーボールを贈る運動

難民の子供たちにとってサッカーは唯一のスポーツであり、娯楽である。内戦



◎わちあひプロジェクト例会を8月を除く、毎月第3火曜日の午後7時から行っています。歓迎いたしますのでご出席ください。

◎子供のための古着をソマリア難民キャンプへ！ 昨年に続き乾パンを墨田区と新宿区から寄贈していただく予定です。古着も喜ばれていますので、ダンボール箱で400個を直接、横濱の倉庫に送りコンテナに積み込みます。協力いただける方は、前以てハガキかファックスでご連絡ください。要項をお送りいたします。(6月予定)

◎カンボジアに学校を寄贈
深谷のぶ氏は今までに、ペルー、ラオ

お知らせ

スなどに学校を建てる支援をされて来たが、この度、わちあひプロジェクトを通じ、バングラデシュのご寄附に小学校を4校建設するための寄付をされ、現在、建設中です。感謝！

◎カクマ難民キャンプでボランティアを募集！
期間：8月一杯
内容：サッカー指導、植林など
人数：3名
資格：大学生以上、健康で英語が少しでも出来ること。
費用：15万円(その他は補助)
締切：6月末
申込方法：志願動機を原稿用紙に書いて

て申し込む。詳しくは、松木までお問い合わせ下さい。



TUPのボランティアと運営委員

発行所 わちあひプロジェクト 130 東京都墨田区江東橋5-3-1 電話: 03-3634-7867 FAX: 03-3634-7808
編集者 松木 傑 郵便振替口座: わちあひプロジェクト 東京都 758331 (コピー機・紅字支払い用)
わちあひプロジェクト募金 東京都 762258 (募金用)